令和 4 年 2022 年度

自己点検および学校関係者
評価報告書

宇都宮アートアンドスポーツ専門学校

学校の現状

Ⅰ.学校の教育目標

1.専門学校としての使命と目的

学校教育法第 124 条、及び第 125 条の規定に基づき、社会人として必要な教養と専門知識を有する有能な人材を育成し、文化教養及び商業経済の発展に貢献できる人材の育成を使命・目的とする。

2.教育目標

使命、目的、教育方針のもと、教育目標を下記のように定める。

- 専門技術や技能の習得
- 豊な人間性と個性の伸張
- 誠実で心豊な人間性の育成
- 広い視野と優れた創造性を育む
- たゆまぬ努力とどんよくな研究心・向上心の育成

これらを育むことにより自信をつけさせ「社会での生きる力」を植えつける。

Ⅱ.重点的に取組むことが必要な目標（教育重点項目）

1.学生の「やる気」向上の実現
2.ドロップアウト・ゼロの実現

重点項目	評価項目	評価※
1-1	学生の「やる気」を向上させるための研修は行われているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

本校では数年前より、授業展開の状況により学生間同士で学び合うアクティブ学習を取り入れている。この学習に対する教員の指導熟練度に差がある。（新任の教員など）また、グループ学習のためコミュニケーションに苦慮する学生の対応に課題が残る。令和 4 年度も新型コロナ感染防止から対面形式のグループ活動に制限が生じた。

② 今後の対応または改善

この学習方法における教員の指導力向上が望まれる。各学科により授業形態の差異はあるが、グループ学習を適宜取り入れ、指導経験値を向上させていく必要がある。コミュニケーションに苦慮する学生に対しては、個別面談指導（既存）を用いて、コミュニケーションを持つ場として捉え、スキル向上への指導していく。またこの学習自体をコミュニケーション能力向上の場と捉えさせる指導をしていく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・グループ学習を取り入れ、学生間同志のコミュニケーション向上を図り、全体的な「やる気」を起こさせることは素晴らしいと思う。
そうすることで、クラス全員で卒業するんだという意識が強くなり、ドロップアウト学生が一人でも少なくなることを期待している。
・全教員に対する研修や、各先生が個別にスキルアップを図る研修に参加するなど適正に行われている。

重点項目	評価項目	評価※
2-1	ドロップアウト対策は計画的に行われているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・国内の経済動向により、各家庭で経済較差大きく生じる。その反映から学生の意に反し、就学困難な状況も発生し、そのような学生への対応をいかにすべきかが問題である。国による修学支援(減免減額・給付型）を経済状況の厳しい家庭に案内している。また従来の貸与奨学金も併せて利用するケースも増える傾向にある。
・ 不登校経験がある学生が、本学入学後に再出発するも、GW や夏休み等の長期休みの時期をきっかけに登校しなくなる傾向が強い。そのような学生に対し、どのような指導が適切か教員は苦慮する。
・ 学生の習熟度に差が出てしまい、学習意欲低下を招き学校の意義を見失いがちになる。学科別の到達目標もあり学科運営にも苦慮する。

② 今後の対応または改善

・ 国の教育支援や日本学生支援機構の案内を積極的に勧める。また学生を通して各家庭の事情の把握にも努めていく。必要に応じて、保護者との三者面談を実施していく。
・ 精神的な問題を抱える学生には、学校での対応及び公共機関の専門家と共に心のケアの充実を図っていく。
・ 技能力には先天的、後天的があり学生個々に特徴がある。個々の特性を見出し、いかにそれを高めるかを主体にし、やる気を維持させていく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・ドロップアウト要因が、経済的なものなのか、精神的なものなのかをよく把握し、それに対処していると思う。
教育支援の案内や三者面談の実施、担任や上席教員よるケアなどに努めていることなので、その成果が結果として反映されることを期待したい。
・各家庭の状況を知るためには、保護者も含めた三者面談が有効と思われる。
生徒が日頃に発するシグナルを見落とさないようにしていくことが重要である。

Ⅲ.評価項目の達成及び取組み状況

１.教育理念・目標

項　目	評価項目	評価※
1-1	教育理念・目標・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・1-4 教育理念等々、入学後のガイダンスで実施される。
このガイダンスは「学生の手引き」を用いて詳細に実施される。
入学生に対しては十分な周知と捉えられるが、保護者に対してはオープンキャンパスのみなので、情報量が不足と思われる。

② 今後の対応または改善

・ 1-4 今後は入学時のタイミングで、学校の方針等を含めた冊子を保護者宛に配布（郵送）していくことも検討していく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・ほぼ全体にわたり評価４となっていることは素晴らしいことだと思う。あとは、教育理念等の周知だが、引き続き根気づよく努力していってほしい。
・生徒のみならず保護者の理解も必要なので、生徒経由もしくは郵送して理解を深めてもらうことが重要だと思います。

2.学校運営

項　目	評価項目	評価※
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・2-8 業務部門では業務部門社内システムが運用されている。
教務部門でも別途システムの運用もあるが、システム運用の不慣れ解消に若干時間を要す。

② 今後の対応または改善

・2-8 全教職員が情報システム利用の不慣れを解消し、迅速な情報の共有化等、作業の効率性を高める。
・2-8 学校側と学生の共有システムを導入し、運用している。
・2-8 新型コロナウイルスでの活動自粛をきっかけに、Web 授業等の体制を構築した。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・ほぼ全体にわたり評価４となっていることは素晴らしいと思う。
情報システム等の運用は慣れもあると思うので勉強を怠らず引き続き努力していってほしい。
・問題なく運営が行われている。

3.教育活動

項　目	評価項目	評価※
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3-6	関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みは行なわれているか	4
3-14	職員の能力開発のための研修等は行われているか	4

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・3-2 学習時間の確保において、インターンシップでは、新型コロナウイルス感染防止対策の影響が残った。受け入れ見合わせ事の事業所があり実施に至らなかった。
・3-4 スポーツ分野など難易度が高い資格取得を目標とする学科では、学習に習熟度に較差が生じる。授業、カリキュラムの工夫を要する。
・3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し等は、全ての学科で行われているわけではない。今後、各団体と学内状況を併せての検討を要する。
・3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価は一部の学科のみ。全ての学科で行っているわけではないのが現状である。
・3-12 業界との連携において優れた教員の確保は、難しいのが現状である。

② 今後の対応または改善

・3-5 全ての学科での企業・関連施設など業界団体との連携を検討する。
・3-12 関連分野における業界との連携をさらに深めつつ、教員のスキルアップを業界団体の支援をいただき学校としてマネジメントできる体制作りをすすめる。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・アート系、スポーツ系という個人能力に左右される特異性のある分野だけに、業界との連携が難しい面もあると思うが、方向性は間違っていないと思うので、引き続き努力していってほしい。
・学科が様々な分野にわたる為、大変難しいところもあるが、将来就職先として考えれば、その業界との繁がりは重要なので、連携できるようにすることは重要である。

4.学修成果

項　目	評価項目	評価※
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生･在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・4-4 在校生の場合は状況の把握できている。卒業した生徒に関しては、各業界で顕著な活動をしている者以外、把握できてない。
・4-4 卒業生の社会的活躍及び評価は把握手段を模索する必要性あり。
・4-5 芸能系学科は外部制作現場と常に近い位置にあり、キャリア形成の必要性を常時認識できる環境にあり、授業へフィードバックされている。他学科はこれと比較した場合、同等とは言えない。

② 今後の対応または改善

・4-4 今後、就職先企業とも連携を図り、卒業生の追跡調査（評価）を実施できるシステムを構築していく。
・4-5 各学科の独立している卒業生に現況報告を依頼し、活躍の把握やキャリア形成について回答をいただき、学校の教育活動改善への一端として活用していく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・卒業後までの状況把握となると、なかなか難しいと思うが、システムの構築を図り、学校(在校生)と卒業生とのコネクションが構築されれば、お互いの活躍の場が広がりをみせ素晴らしいことになると思う。
今後に期待したい。
・定期的に卒業生を招いて講義や講演をしてもらう等の流れを作り、卒業後の活躍状況を把握するシステムを作ると良いと考える。

5.学生支援

項　目	評価項目	評価※
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-7	保護者と適切に連携しているか	3
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
5-10	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

①課題

・5-5　課外活動に対する支援は更に充実すべきである。
・5-7　保護者との適切な連携に関しては、年２回の通知での連絡をしている。その他では、特定学生の保護者のみ、学校や担任とのやり取りになっている。
・5-9　おおよそ全学科、社会のニーズを踏まえた教育環境が整っているが機器類に関しては、毎年最新を追い続けるのは難しい。
・5-10 高校との連携によるキャリア教育・職業教育については、一部の学科に留まっている。

②今後の対応または改善

・5-3　学生に対する経済支援体制では国による修学支援（給付型等）を最大限学生に案内支援している。
・5-5　課外活動の場を、企業・団体にもご協力いただき、多様な活動ができるように検討していきたい。
・5-7　保護者との適切な連携に関しては、今後、面談希望の保護者がいれば、導入の検討もしていく。
・5-9　今後の社会のニーズを分析し、全ての学科において、それを踏まえた教育環境の提供を随時更新していく。
・5-10 市内私立高校と提携し、高校の授業に専門授業を取入れ講師を派遣している。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・学生支援に関しては、ほぼ適切に対応されていることは素晴らしい。ただ、社会ニーズに沿った機器類等の整備は財政的なものもあり難しい面はあると思うが、教育環境の創出は重要であり、学生募集にも影響するものなので努力は続けていってほしい。
・学生に対する支援は適切に行われている。

６.教育環境

項　目	評価項目	評価※
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3
6-4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・6-2 インターンシップは全学科における今後の課題といえる。
現在は一部学科のみでの実施となっている。
また新型コロナウイルスの影響によりインターンシップの受け入れは、限定された。海外研修については設置学科の状況から現時点で整備されていない（学校・団体として）
・6-3 災害の発生を想定した避難訓練を実施しているが、定期的な実施の必要がある。
・6-4 安全管理体制整備されているが、細部の検討が必要。

② 今後の対応または改善

・6-2 全学科での実施を目指したいが、業界によっては受け入れ不可の業界もあるため、実施可能学科を見極め、受け入企業を開拓していく。
・6-3 地域防災訓練にも積極的に参加して、地域住民との連帯意識を持たせ、学生の防災、安全行動の認識を持たせる。
・6-4 安全管理体制の更なる浸透と、迅速に運用されるよう模擬訓練を実施していかなければならない。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・コロナ禍の影響や外的要因もあり、学校だけではどうにもできない部分もあると思うが、引き続き努力していってほしい。
・安全管理体制については、これで充分ということはないので、常にアップデートし対応できるようにしておく必要がある。

7.学生の募集と受入れ

項　目	評価項目	評価※
7-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-4	学納金は妥当なものになっているか	4
7-5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・7-1 本校職員が高等学校進路担当教員に専門学校の情報提供を実施している。また、高等学校からの本校入学生に対して、申送り書など相互で情報の共有化をしている。また業者主催の各説明会に参加するも、希望するすべての生徒に情報を提供できていない。
・7-2 募集活動は適正に実施されているが、18 歳人口の減少、大学進学の増加、就職希望者など募集活動に工夫が必要と思われる。
・7-3 オープンキャンパスの際、本校の教育成果を報告している。また、本校職員が高等学校進路担当の教員に報告している。訪問に際し、報告頻度・報告内容等、当校担当者が資料作成と訪問スケジューリングに苦慮している。

② 今後の対応または改善

・7-1 本校の各分野に興味を持っている生徒対し、直接説明できる機会を企画する。
・7-2 高校への出前授業、校内進学説明会、会場進学説明会、バス見学会、オープンキャンパス等、募集活動は継続的に実施。また時代や社会ニーズに見合ったコース設置とカリキュラムを編成し、進路選択のニーズに繋げている。
・7-3 当校の最新実績、各高校卒業生の実績等、各高等学校や生徒にに最新を提示できるよう

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・少子化により県立高校も合併化が進み出している。そんな中で今までどおりに学生を受け入れていくためには高校へのアピールは非常に大切だと思う。機会の創出づくりにさらに努力していってほしい。
・時代や社会ニーズに見合ったコース設置ができており、今後の募集活動も色々と工夫して行われている点は評価できる。

8.財務

項　目	評価項目	評価※
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・8-1 財政基盤の安定性は学校運営にあたり最重要課題である。
18 歳人口減少により、定員の確保は厳しさを増しおり、
入学者を確保するための戦略を持ち、継続的な企業努力を
推し進まなければならない。
この 2 年間、コロナ禍で県外進学者が減少したため入学者が増加した。

② 今後の対応または改善

・8-1 財政基盤の安定のための入学者確保
４年制大学への進学は今後も高まっていく。
大学と専門学校の違いをアピールして安定的に入学者数を
確保したい。そのためにも高い実務能力と専門性を提供できる
機関（学校）と認知されるような体系を目指していく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・きちんと状況分析がなされ、問題なく運営できている。

9.法令等の遵守

項　目	評価項目	評価※
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
9-4	自己評価結果を公開しているか	4

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・9-3 早期に自己評価と問題把握をするために、6 月に実施した。
問題点の改善には、分析と改善を実現化する計画的な
取り組みが必要。

② 今後の対応または改善

・9-3 問題改善の取り組むためには、委員会等の設置が必要と考える。
実現可能な具体的な取り組みを協議していく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・今後の対応にある通り、委員会等の設置を検討していただきたい。

10.社会貢献

項　目	評価項目	評価※
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等含む）の受諾等を積極的に実施しているか	3

※４：適切、３：ほぼ適切、２：やや不適切、１：不適切

① 課題

・10-1 コロナ前には、地域団体に学校施設を提供しての会合や講座を実施していた。また教育団体が学校施設を利用しての講座の開催があった。コロナ禍になり、感染予防対策に伴い、学校施設の貸し出しがストップとなった。
当校主催の地域貢献活動を月１回のペースで実施していたが、コロナの影響により休止している。

・10-3 公開講座・教育訓練の受諾等であるが、現在の教員の授業形態では受託は厳しい（一部受託実施あり）

② 今後の対応または改善

・10-1 今後、受け入れを推進していく。

・10-3 同一部門での受け入れは見られる。当校の各分野で、公開講座・教育訓練の受諾ができるよう、教員の業務状況の調整を検討していく。

＜学校関係者評価委員記入欄＞

・コロナ禍という大きな障壁があったため仕方がないところもあったが、やっと世の中が落ち着いてきた感があるので今後の推進力に期待したい。

・コロナの影響で積極的にボランティア活動を行うことができなかった。令和５年度は以前のように社会貢献活動を行っていただきたい。